

派遣スタッフ育成 機械保全技術者に

ものづくりの現場では機械・設備のメンテナンス人材も不足している。製造業への人材派遣を手がける「エヌエス・テック」（本社・横浜市）は、機械保全技術者の育成のための「東海トレーニングセンター」を昨年3月に名古屋市に開設した。製造現場のニーズに応えるとともに、派遣スタッフのキャリアアップを



「エヌエス・テック」が機械保全技術者の自社育成のために設けた「東海トレーニングセンター」(名古屋市南区)

横浜の企業 人材不足解決・キャリアアップ狙う

支援するのが狙いだ。名古屋市や四日市市など、全国に24拠点を持つ同社は、製造ラインで働くスタッフを中心に、製造業に特化した人材を派遣してきた。

派遣先は、愛知県では自動車関連企業が8割以上を占め、四日市市は自動車関連や機械メーカーが多い。

近年、ニーズが高まっているのが、機械・設備のメンテナンスの技術やノウハウを持つ人材だ。

「働き手不足やAI（人工知能）の導入で、生産現場の機械化・自動化が進む一方、安定稼働させるための機械保全技術者の確保が、製造業で課題になっていく」と同社業務部長の江平光弘さん。

専門的な技能や知識が必要になるため、派遣スタッフとして募集してもなかなか応募はない。江平さんは「人材が足りないのなら、自社のスタッフを機械保全技術者として育成して供給

することもできるのでは」と考えた。

トレーニングセンターは同社初の技術研修施設。同社の派遣スタッフから希望を募り、1カ月半の研修を経て点検やメンテナンス、故障診断、修理、安全管理と品質保証の技能や知識を習得する。

国家資格の機械保全技能士の3級や2級の取得も支援する。講師は、大手メーカーを退職した技術者が担当している。これまで7人が研修を終え、このうち1人は機械保全技術者として製造現場に派遣されている。

江平さんは「機械保全技術者は、いわば『機械の医者さん』。正規雇用への道が開かれる可能性も高い」と指摘する。その上で、「働き手のキャリアアップと製造現場の安定稼働につながる人材の供給で、持続可能なものづくり産業の発展に貢献したい」と語る。

（鈴木裕）